222 蚊が保有する *Brugia* 属フィラリア幼虫の検出に対する感染幼虫特異的モノクローナル抗体 BpG1 を利用した酵素抗体法の実験的検討

○ 及川陽三郎、池田照明（金沢医大・医動物）、月舘説子、藤田紘一郎（東京医歯大・医・医動物）

Experimental study of the detection of *Brugia* larvae from mosquitos by enzyme-linked immunosorbent assays using BpG1 monoclonal antibody against infective third-stage larvae.

Oikawa Y., Ikeda T., Tsukidate S. and Fujita K.

我々は以前 *Brugia pahangi* の感染幼虫（L3）抗原で免疫したマウスより L3 特異的モノクローナル抗体 BpG1 を作製した。この抗体は *Brugia* 属フィラリアの L3 とのみ反応し、他属のフィラリアや同属でも成虫やミクロフィラリア（mf）の発育ステージとは反応しなかった。今回は、この性質を利用して野外で採集して乾燥あるいはアルコール中で保存された蚊が保有するフィラリア L3 の検索に BpG1 を使用できないものか検討した。実験的に *B. pahangi* mf を取り込ませた *Aedes aegypti* を室温 29°C、13 時間照明下で飼育し、その体内容物と BpG1 との反応性の経日的な変化を酵素抗体法で観察した。

223 発生環境の異なる 3 種ユスリカとコナヒョウヒダニ抗原の IgE 反応性抗原に関する検討

○ 菊池三穂子¹、平山謙二¹、坂本芳雄²、山本恵一郎²、佐々学³（1. 埼玉医科大学, 医動物 2. 同、第 2 内科 3. 富山国際大学）

Analysis of specific IgE antibodies to three species Chironomid midges antigens and House dust mite antigen. Mihoko Kikuchi, K. Hirayama, Y. Sakamoto, K. Yamamoto, M. Sasa

湖沼、水田、河川の異なる環境から発生する代表的な種であるオオユスリカ (CP: *Chironomus pulmosus*), セスジユスリカ (CY: *Chironomus yoshimatsui*), ツヤユスリカ (CT: *Cricotopus trianulatus*) の 3 種類のユスリカについて、気管支喘息患者と健康成人においてプリックテスト陽性率、および IgE 抗体価の陽性率を調査したところ、3 種ユスリカのうちのいずれの群においても CT が高率であった。*Cricotopus* 属のユスリカは、主に水田や小河川などから大量発生することがあり、飛散抗原として環境中に存在すると考えられる。また、これまでユスリカアレルゲンとして論議されてきた Hb-antigen を持たない種類であることから全く違うタイプの抗原が関与している可能性もある。このことから、ツヤユスリカ (CT) およびコナヒョウヒダニ (DF) 抗原に対する IgE 反応性抗原の検討を行なったので報告する。健康成人 100 名被験者の中から CT と DF 抗原に対し IgE 抗体陽性者の血清を用い、IgE 反応性抗原バンドをウェスタンブロット法を用い AP 標識抗ヒト IgE (OEM 社) を 2 次抗体としてケミルミネセンス法 (Trophix 社) により検出した。また、DF 抗原に対し CT 抗原添加血清を用いて Inhibition test を行った。この結果、CT 抗原と DF 抗原には強い交差抗原が存在することが示唆された。